

人材育成等に関する目的
工業化学科は、人類に必要な物質やプロセスを創製する為に必要な教養、基礎、専門知識を教授し、将来自らこれらの研究開発ができる能力を有する人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー

1. 理學の精神と、「自然・人間・社会」とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、学科が定める「人材育成に関する目的」を実現するための工学(工学)の教育課程を編成する。
2. 質に実力を身に付けたい学生のみなさまを育てる「実力主義」の伝統を重視し、積極的な教育研究を実施する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、「一時的な実習を定めるための」「一時的実習科目」、工学分野における各専門分野の基礎をなす「基礎科目」、工業化学分野における研究者・技術者等に必要能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 工業化学分野で活躍するためのキャリア教育や、国際性、コミュニケーション能力、問題解決能力、協働的・批判的思考力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会に係る幅広い能力、判断力・行動力、柔軟な授業科目を効果的に配置する。
6. 実証教育においては、状況に応じた柔軟なクラス編成を取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「基礎科目」では、初年度および基礎段階科目、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学習時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」上の接続を図る。
8. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、演習等の授業科目を重点的に組み合わせることで工業化学分野の専門知識と技術を高め、併せて他の授業科目との関連や学習探求の方法を学ぶ。
9. 学士課程の最大成として、最終学年次に卒業研究を実施する。
10. 自身の専門分野を超えて幅広い関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科の科目の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

ディプロマ・ポリシー

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った工業化学分野における研究者・技術者等の養成を目標とし、以下の知識、能力を身に付け、学科が定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 工業化学分野に必要な基礎的な専門知識
2. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、工業化学分野に關する積極的な態度と行動力
3. 修得した専門知識や技術をもち、自ら課題を発見、解決する能力
4. 修得した専門知識や技術をもち、協働的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力
5. 修得した専門知識や技術をもち、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力
6. 修得した専門知識や技術をもち、他者に専門的にコミットする能力

